（昭和三年十一月二日第三種郵便物認可）　昭和十年四月十九日　磐城新聞　（金曜日）　第四千三百一號　〔一〕

夕刊
磐城新聞
四月十八日發行

定價　一部金五錢　一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料　普通欄　一行金六拾錢　特別欄　一行金九拾錢（五號十二字詰一行一回）（場所指定一行貳拾錢增）
編輯印刷兼發行人　柏木　福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
振替口座（ダイライワセ）平局私書函第十二號　電話五・六・四番

（日曜祭日翌日休刊）

古本趣味

片寄耿二

本を讀むといふ事はなかなか難かしい事らしい

本を讀む人にはそれぞれ個性があり趣味があるので一がいに云ふ事は出來得ないが、一時流行つたフランスばりのアンカットの本でなければ承知しない人もあり、又反對に古本ばかりを求めて歩く人もある

本當に面白味のあるのは古本を求めて歩く事だらう

絶版ものとか、發禁になつたもの、若しくは犬猫の皮で作つた表紙とか、其の他色々あるが、思ひがけない本を見出した時の心境は、愛書家以外には味ひぬ境地があるらしい

平町にも古本屋が一二軒ある。然し餘り珍らしい本は出ないせいもあるだらうが、町の人は趣味がないらしく、極く一部の人達に限られてゐる様だ

先日、町の某書店に漱石の『吾が輩は猫である』の初刷版が出た。勿論表紙は猫の皮であるが、これは初刷本といふところに價値があるので今求め様としたつて容易に手に入るものでは無い。近頃では美濃部博士の『憲法要撮』が矢張り初刷本で出たが、出ると間もなく例の發禁で相當な値段の本になつてしまつた

愛書家には紀の國屋から出てゐる『書物展望』といふ雜誌をお薦めする。平には二冊ばかり入つてゐるが良雜誌だ

町の藏書家と云へば諸橋氏と佐賀の大和田氏の兩人がそれぞれ異つた本を貯藏して私設圖書館の觀があるが、諸橋氏の三猿文庫は有名なものである。平附近の舊家には、舊藩時代からの貴重な文献類が相當あるらしい。東京の商人が時々買取つて行くのを見れば良く察知する事が出來る。然し得難い文献の流失は全く惜しいものだ

圖書館の建設は永年來叫ばれてゐる事だが、未だに實現しない。取戻す事の容易ではない文献の流失を防ぎたいものである。多くの識者に訴へて實現の早からん事を希望する

春のハイキングコース

あなたはどこが一番好きですか

(1)

（到着順）

○　高木愛二

若木の山をめぐらし紺青にたゝへたる上湯長谷の湖のふちを自轉車で飛ばすのが何よりの樂みに候

○　岡部夜椎

ハイキングコースになるかプロムナードになるか解りませんが矢張り春は曙で八幡小路あたりから高麗橋の城山邊が私の様な下町生活者にとつて大層良いコースだと思つてゐます。若し私に幸にしてヨリヨキ半分でもあれば

二人づれなら新川邊り

月もおぼろに薄化粧

……と言つたところですがね

○　高瀬勝男

吾が家、蒼天しらみ、吾が庭に大河あり、別に戸外にたつ程の必要もありません。強ひて場所なりをいへばこれからの散歩に愛谷の堰をおすゝめいたします

○　佐々木顯

沼の內賢沼辯財天の神ビ的なるのと豊間鹽屋崎燈台からの三十分間。霧笛を聞くのも亦一興かと思はれます

○　伊達森里

當町よりは遠からず近からず仁井田浦から新舞子あたりが問の春の行樂としては尤もよい處で出來得るなら男性女性合併なるたけ大勢で春の新舞子ハイキング決行如何です

水底に葭の芽光る仁井田浦

砂原に何やら草の芽萠して

引汐に貝あさる子や春の海

○　三野混沌

平水道の源、大瀧の絶景春のハイキングコースをとるなら私はそこです。やまべつりからやまべを買ふて食べるもよい。青空は、しぶきを吸ひつゝ恣の如くに流れるがこゝの春の一日は濱邊の一週間にもかけあふかとも思ふ

○　新妻久滿夫

喧噪と焦慮と塵埃裡に都市生活をする人々や、冬季中大地の綠を眺むること能はざる雪國の人達と異なり小生は野にも山にも特別に迫力を感じ申さず、神社佛寺等に春光を浴びて銷ひをく位が關の山にて候

右御答へ申上候

○　淡路辰五郎

小生は足不精であるのとラヂオのリーグ戰があるのとで、ハイキングは家の中でといふ譯で御座います

○　吉田儻

御たより御厚禮申上ます

數ならぬ身に御叮嚀な御書翰を寄せられ届ませぬが左の如きもの

『自分はまだ湯の嶽へ登らぬ。一望遮るものなき湯の嶽の春は、どんなに磐城の野を展げてみするであらう

この魅力は是非行かふと自分をつぶやかせる』不乙

○　青山貞三

ハイキングと云ふ程の事にては之無く夏井川の土手にて晝寢をするのが樂しみにて候。但し蛇の居らざる様な處にて候

○　山口彌一郎

神谷の農事試驗場南の夏井川邊の土堤の若草の上にねそべつて心ゆくまで春を味ふのが好きです。これは郷里が會津盆地の川邊の農村であつた爲めかも知れませんが

○　美崎一郎

專稱寺の北手より渡舟にて夏井川を横ぎり農事試驗場に花卉を樂しみ、川岸傳ひに鎌田に出でゝ流るゝ水に春の香を嗅ぐ

○　野本多霞夫

夏井川に沿ふて新しく出來た土手を新舞子まで行くあの明るい感觸に春の魅惑を感じます

○　渡邊何鳴

私のごとき閑暇にめぐまれぬものは終日もしくは二日がゝりのハイキングなどは到底のぞみ得ないのです

それで診療の餘暇僅かに一時間か二時間位の散歩が關の山です。この程度の散歩には平町近郊としては大館の權現山が一番好きです。四園の眺望もよく、老杉欝蒼として聳え立つてゐる靜寂境です。

林徑や谷杉深く山櫻

○

一つの事を書くには十の知識が、十の事を書くには百の見聞が無ければならない。

渡邊武門（寄）

○一本の大樹を中に花の幕

○クタ／＼と土堤に崩れし花疲れ

○春の雨川面に弱くなりにけり

○芦の芽に小さき水輪生れけり

○芦の角はなるゝ水輪歪みけり

木曜だより

○山縣深雪氏より去る十五日久ノ濱漁港修築事務所に轉任する旨挨拶があつた

○磐本町の吉田儻氏等が出してゐる筈の『詩境』のその後を知りたく存じ候といふ投書あり、御承知の方は係までお知らせを乞ふ

4月19日

△阿片の喫煙を禁ず（明治九）△米大統領金輸出再禁止を聲明（昭和八）△國民政府我が新對支策聲明に對し非公式聲明を發表（同九）

講談　戸隱奇譚　山の怪秘

(161)　丸山寛雄作　眞木浪畫

人形芝居奇遇（二）

刈馬平七郎は、妙心の厄介になりながら毎日江戸の街をあてどもなくお豐の行方を探し歩いた

先づ手近の三枚橋のほとりに立つて、往き來るさの江戸の女に一一、目る見張つた。が、何をいふにも何萬と知れない人の數であるそのうちは眼の方が草疲れてしまつた

これでは不可ない。もつと他の方法でやらなければ――と、思つた。それから妙心の智惠でなるべく若い女のゐる場所へ行つて探す事にした。芝、神明下の矢場、兩國廣小路の水茶屋等など、一心に覗いて歩いた。が、それも徒勞に終つた。

次に遊女になつたらしい事を思ひ出して、吉原の遊女屋を軒並みにのぞいて歩く事にした。しかし似てゐる遊女はあつても、それらしい者は發見出來ない。そのうちに平七郎は歌舞の菩薩の艶麗な姿に探索といふ心持が段々亂されて行くのを悲しく思つた

そんな芳しくもない氣持ちで、遊女屋を素見かして歩くのは厭になつて來た。

自分の周圍を眺めれば景氣のいゝ吉原冠りの江戸の若い衆達が笑ひさゞめきながらぞよめき歩いて行く、見るからに幸福と歡喜そのものだ

大体こんな場所を腰のものをさして、威かつく歩く自分の恰好が不自然に思へた。生じ侍姿でゐるから心から碎けて浮き／＼した氣持になれないのだと思つた

そこで懷中から手拭を出して一般の漂客のやうに頰冠りをして歩いた。が、またこれが不味かつた。こんどは自分の方が、ぢろ／＼若い衆に見られる始末である。中には指をさして哄笑したり、田舍侍などいふ言葉も聞えて來た。頰冠りの仕方が甚だ滑稽なのだつた

平七郎はもう半ば自暴になつて、どうでもなれといつた心持ちで堂々と歩いた

その恰好がこんどは遊女達の目をひきつけた

『ちよいと、お若いそこのお武家樣、お上りなさんし！』

と、いづて長い煙管を差つけた遊女があつた。その瞬間あまりに艶麗過ぎて毒々しいほどの姿態が却て平七郎のかんに觸れた

『お前、女郎蜘蛛のやうだな、年はいくつだ』

平七郎は勿論あくどいこの物云ふ花に對して好感は抱いてゐなかつたが、からかつて見る氣になつた

『まあ、そんなことより、さあお上りなさんし』

女は平七郎の袖をしかとつて離さない。平七郎は戸隱街道柏原宿の飯盛女とは又違つた甘美な味があると思つた

『本名、お豐と申す遊女は居らぬか』

念のために聞いて見た。勿論顏見せで判るとほりお豐は居なかつた

次に、その隣の遊女屋へ入つて同じことをきいて見た。すると今馴染客と遊興中ではあるが抱への遊女の中に居るといふ、平七郎は小躍りしてその二階へ上つた

なんといふ嬉しい運命の巡り合せであらう。平七郎は部屋に坐つてゐても腰の方は絶えず浮き浮きしてゐた

やがて、派手なうちかけを汇らせて、髮を大きな立兵庫に結つた遊女が靜かに入つて來た。平七郎の視線はその顏に飛びついた。がうした運命の惡戯であらうか、それは全くの別人だつた

平七郎はあまりの馬鹿らしさに、遊興もそこ／＼にして眞一文字に妙心の家へ戻つて來た。そして江戸で探し人をする事は無駄な事だと痛感した

妙心は、この事を聞いて獨りで笑ひこけた。そしてこの位のことに悲觀せず氣長に探索することだといつて慰めてくれた。平七郎はあまり焦り過ぎる自分を考へた

廣告

美味で評判の
イワキサロン
平町電三五二

株式賣買、債權取立
合資會社 三共商事
平町大町電三六〇

皆様!!!のアサヒ寫眞館が生れました
記念撮影は貴方の…アサヒ館へ!!
キット御氣に召す事と存じます……。
夜も晝も變りなく撮影いたします……。
奉仕型（五枚）金五十錢
美麗シオリ付（四枚）金五十錢
現像、燒付、引伸…寫眞一般
アサヒ寫眞館
田町

株（買フ／賣ル）御方ハ
治株式店へ
平町田町五四
電話平73

自轉車ハ左記
有名車を御撰擇下サイ。
◎宮田ノ自轉車　世界的ニ進出セル
◎ゼブラノ自轉車　夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
◎マーノ自轉車　實用經濟車トシテ好評アル
◎マーツ號ノ好評ヲネタミ羊頭狗肉ノ策ヲ用ヒ偽物ヲ販賣ナシ商權ヲ侵害ナシツヽアル者アリ法的解決ニヨリ御得意樣ノ御了計ヲ得ン
宮田代理店
ゼブラ代理店
マーツ代理店
エビスヤ商店
電六六四

（入院應需）
小兒科
平町南町五〇番地
志賀醫院
電話一六二番

磐城共濟病院（福島縣平町）（電話六四一番）
內科　院長　醫學博士　石山謙郎　電話六四一番
小兒科　部長　岩手醫學士　平賀一忠
產科婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二　電話三七〇番
外科耳鼻咽喉科　部長　醫學士　大町久藏
皮膚泌尿器病科花柳病科　部長　醫學士　前澤正　電話二七二番
X光線科　醫學博士　石山謙郎
物療科　技手　石山彪
衞生試驗所　獸醫　高後利雄
藥局　藥局長　藥劑師　吉本孝平
事務長　鈴木寶雄
◎毎日午前八時ヨリ
◎夜間診療開始）毎夜午後十時迄
◎病室完備　入院隨意

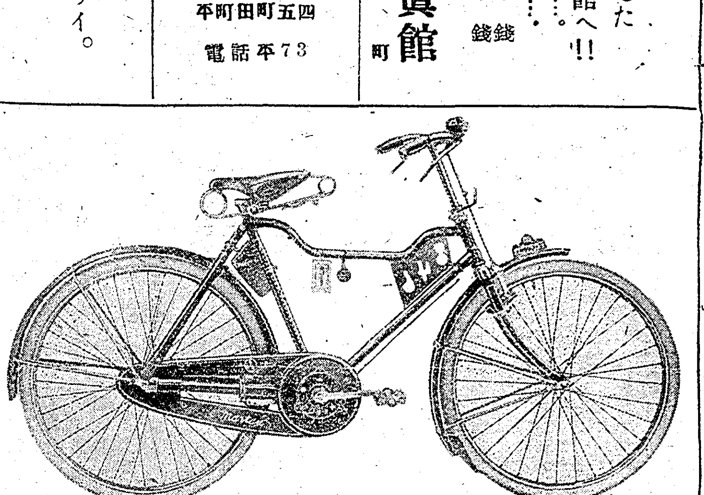
外科
內臟外科
レントゲン線
▷病室完備◁
醫學博士　諸橋鐵彌
新川町二七（電四六四）

夜間診療
胃腸　性病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科　皮膚科
專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

平町田町
高久病院
（電話五三一番）
內科　外科　小兒科　花柳病科　耳鼻咽喉科　レントゲン科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽濟
藥劑士　佐竹菊雄

新學期
通學服賣出

お孃ちやんお坊ちやん方の可愛らしい通學服を豐富に取揃へ特價提供
男兒用
紺サージ金釦服…3.60より
上口黒小倉服…1.60より
女兒用
紺セルセーラ服…2.60より
紺サージ制服…3.60より
ふかや洋服店　平三　電203


防盜輪鍵附屬
頑固車
正價　三十八圓五十錢
フタバ商會
平・新川町・橋際

絶好の天氣に惠まれ けふ縣社大祭の賑ひ
松ケ岡公園も灯さし頃から ―夜櫻見で大混雑か

注連繩に幣のそよぎも明るく、何と惠まれた縣社の例祭であらう。陰鬱な空合から書き入れの灯ともし頃に降り出して一刻千金の春宵を臺なしにして了つた昨日の天候とは打つて變つて、稍々見頃を過ぎた花乍ら、之を散らさぬ程の風も温かく、早朝來の好晴にお祭りと花の二重奏は全町民の行樂氣分を彌が上にも唆りに唆つた、着飾つて群れ歩く老若男女、掛け聲も勇ましく額に汗を光らせ乍ら御神輿を揉むきほひの揃ひ浴衣、小さい客を呼ぶステッキ飴屋、藝者を乘せて公園へ急ぐ俥の警鈴、ありとあらゆるものに點出された花とお祭りの光景は、二三人の迷ひ子迄出した昨日に優る賑ひであつた、公園も灯ともし頃から夜櫻見物で噪かしの人出であらう

各炭鑛に馴染深い 仙鑛局諸井鑛政課長榮轉
東京局の同課長へ

管內の鑛山對抗野球庭球、水泳等の陣頭に立ち明朗課長として信望があり地方各炭鑛とは殊の外馴染深く最近も後藤局長と共に入山の創業四十周年記念祝賀式に列した仙臺鑛山監督局鑛政課長諸井桃二氏は石城の出張先から歸廳した翌十七日付を以て東京同局の同課長に榮轉した、後任は特許局事務官白井義三氏に決定した

中堅農民入所式 石城郡農會中堅農民約百三十名の第八回入所式は昨十七日午前十時から平園体事務所で擧行、直に講習を開始したが來月三日は植田町農會に於て第一回現地講習を行ふ

登記事務協議 平區裁判所管內登記事務協議會は明後二十日同所に於て石井福島地方裁判所長臨席の下に開催されるが了つて午後四時より常磐亭に於て懇親櫻會を開くと

乘降一萬二千名
花と縣社の宵祭で 昨日平驛の盛況

縣社の宵祭り、峠の花の關係から昨十七日は驛の乘降も一萬二千餘名と云ふ今季最初の記錄を作つた、尙水運主催の茨城方面觀櫻團約八百名は愈々第三日曜の來二十一日平着午前九時五十八分の臨時列車で入り込むので當日は田町美妓連及町の土木委員連が驛頭迄出迎へ此の遠來客のサーヴィスに努める事になつたと

之ぞ正に旱天の慈雨 郡下を潤す四十萬圓
救農事業費町村配當決定
菜色を蘇らす

臨時縣會で決議した救農事業費の各町村配當は十七日縣農務課に於て發表された、配當總額二百二萬七千三百三十四圓、配當町村三百六十二ヶ町村にして配當を受けない町村は僅に七ヶ町村に過ぎない、郡下の分は左記三十九萬千八百八十圓である

泉	一七、三六四
植田	三、〇〇〇
錦	三、五〇〇
上遠野	三、九三四
川部	一、九〇〇
飯野	一、六〇〇
高久	一、六〇〇
江名	七、〇〇〇
小名濱	一〇、〇〇〇
磐崎	九、〇〇〇
好間	一〇、〇〇〇
永戸、箕輪村組合	四、三〇〇
澤渡、三阪村組合	四、八二〇
神谷	一三、〇〇〇
大浦	八〇、六八二
大野	一、七〇〇
上小川、下小川村組合	三、五〇〇
川前	四、四〇〇
渡邊	一、三〇〇
山田	二、四〇〇
勿來	二、九〇〇
入遠野	一、四〇〇
田人村外三ヶ村組合	四、六四四
平	六五、〇〇〇
夏井	二、五〇〇
豐間	二、九〇〇
鹿島	四、〇〇〇
玉川	八、七〇〇
湯本	一、五〇〇
赤井	一、七〇〇
草野	二、五〇〇
四ッ倉	一、〇〇〇
平窪	五八、五三六
合計	三九一、八八〇

△配當標準　事業費の配當は救濟本位に事業本位を加味した、而して配當標準は戸數割平均等以下の戸數並に減石數（平年收量に比し九年度收穫高）に比例し配當す、政府米の交付を受けたる町村は減額配當す（永野農務課長談）

炭鑛民俗誌　十九
小稿　山口彌一郎

江漢西遊日記には飯塚に一泊した際の記事に『風呂も是れにて立つる故とかくに臭し、此の石炭は一遍燒きて炭にしたるものなり』とあり、大和本草にも『一旦燒きたるは輕していぼあり、臭氣少し、火氣櫟炭よりつよし』とある。常磐地方では古くからこの惡臭を利用して野猪火に使用したと傳へてゐる

筆者の發見した常磐炭田に關する最も古い文書と思はれる明石屋治右衛門代理として平藏が湯長谷御役所に提出した安政四年十月五日の御請書中に

一當御領分磐前郡白水村於彌勒澤石炭貢獻仕油製仕度段奉願上候處願之通御聞濟被成下置難有仕合奉存候然上者當巳より來る酉迄五ヶ年之間油四斗入一樽に付永廿貫文之割合以爲冥加年々御國益上納可仕候

の一項がある。片寄平藏は越後の人であつたからこれを單に油或は石油とも言つたらしい。或る日湯長谷藩主內藤公が自ら家臣數名を率ゐてこの製油の實狀を視察された事があつた。夜に入つて豫め竹管を以て井下から宴席の中央に製油の煙を引き、火を點じて藩公を驚かした事があつたと言ふ其の時の記事に『煙氣燃燒忽ち光輝を放ち瞭々座を照して晝の如し別して銀燭を用ひず』とある。これは勿論現在の瓦斯燈で當時炭油と稱したのはコールタールに外ならない。これは横濱に船で送り一般に防腐塗用にしたのである。現在尙ほ常磐炭田には『ガンガン』と稱する簡易骸炭に依る普通民家の石炭利用が行はれてゐる。石油罐に多數の穴を穿ち底に薪を入れて上に石炭を載せ燃燒せしめ、黑煙と惡臭の殆んど散じた後家屋內に持ち入れて炊事用に供するものである。これは既に兼葭堂雜錄にも『生石にても能くもゆるも併し甚だ匂ひ深し、二度めは匂薄し一德一失也』とある如く不經濟な燃燒方法で炭鑛地に於て粗惡炭或は運炭其の他で散じたものを拾ひ集めたものを利用するに止つてゐる。然しこの爲に子供は勿論大人も時に籠を背負び石炭拾ひをし、川底に棄てられた石炭を篩ひ集めてゐる者もある。これをズリと言つてゐる

黑眼鏡を掛けた賊 足袋屋を襲つて失敗
特徴を目印に七犯男檢擧

今十八日午前一時頃平町一丁目二一足袋商齋藤喜代志(四四)さん方裏木戸をこぢ開け黑眼鏡をかけた賊侵入し室內を物色中を物音に喜代志さんに目覺められたので賊は一物を得ずして本町通りを逃走したので屆出により平署では黑眼鏡を唯一の手がゝりに搜索した結果同二時半頃平驛待合室を徘徊する不審の男を驛派出の鈴木部長が署に引致取調べの結果此奴は詐欺窃盜罪で懲役七年の刑を終ら去る三月宮城刑務所を出獄した前科七犯の郡山市堂の前三〇生れルンペン相良勝衛(四八)で前記の仕事をした上高飛びの準備中だつた旨自白した目下餘罪取調べ中

物凄い擧動 室內を見廻す

發見の主人は語る　黑眼鏡の特徴其他を告げ逮捕を容易ならしめた主人の喜代志さんは語る

―障子がガタ〳〵するのに目を覺ましたが風のせいかと暫く耳を澄てゝゐると、今度は五分位過ぎて寢室の障子が二、三寸開き片黑の眼鏡をかけた男が室內をギョロ〳〵見廻してゐるので起き上り睨みつけてやつたが最初は變裝かあざ男でもあるのかと思つた　云々

濱荒しの鼠賊任所不定無職

呼出し狀に 親達が吃驚
人違ひと判り安心
春！ナンセンス

双葉郡久ノ濱町東町生れ遠藤勝江(二二)の第二回公判は今十八日午前十時から平區で小林判事係り、淸田檢事關與開廷された、證人として呼び出された父親の傳三郎、何も知らずピク〳〵出頭したが伜の惡事を聞いて青くなつて仰天、いざ當人と會つて見ると『何んだ、之れはワシの伜でありやせん、伜は運轉手を遣つてゐるがそんな惡黨ぢやねエでがす、違ひます』といふ、よく〳〵調べて見た所、この父つあんにも同じ年頃の勝榮といふ伜があり、それと間違つたもの、一方勝江の父は遠藤傳二郎とて同町同字にあり赤の他人と判つて公判は遣り直しといふことになつた

孕んだ看護婦見習 主人に千圓を要求
どうなる？桃色の裁き

小名濱町船引場飯塚敏子(一九)假名―の〃善次郎(四五)は平町山野邊辯護士を代理人として同町中町醫師天野端館(五〇)氏を相手どり此程平區に賠償一千圓の請求訴訟を提起した

敏子は去る六年小學校を卒へ八年四月から前記に看護婦見習として雇はれたが同年八月二日夜熟睡中端館に貞操を奪はれ威喝される儘、翌九年六月迄數回に亙り通じ、同月三十日夜同家土藏で凌辱されんとした所を端館の妻に發見され夫婦喧嘩に乘じて實家に歸り父親から折衝した所關係はしたが姙娠は他の男のせいだと相手にせぬのでこの訴へに及んだものであると

お妾廢業願
老人の執拗に泣き 平署へ縋る

妾廢業願？と云ふ珍問題がけふ平署人事相談所に持ち込まれた――栃木縣那須郡生れの遠藤ミキ(二五)假名―石川縣のとある町で藝者稼業中去る五年秋同縣人の關係から足しげく通つた鈴木某(五九)に六百圓で身受けされ以來東京に愛？の巣を營んでゐたが、鈴木には嫁に行くやうな孫迄あり絶え間無い內輪揉めに居たゝまらず昨年夏以來別れて郡內の知人宅に寄寓してゐたが最近鈴木から『別れる位なら死んでしまふ』との手紙が頻々と來るので今十八日午前兄と共に平署に出頭綿々の書狀束を前に事の次第を申し出たが、ミキさんの肚は『戻る位なら死んだ方が增しだ』の鸚鵡返しで結局女の兄に任せる事に話が纒つた

手を離された幼兒 轢かれて生命危篤
花見が過ぎた父の不注意

內郷村大字白水採炭夫佐藤宇次さんは昨十七日午後五時頃平町で花見をし、ほろ醉ひ機嫌で長男正己(五)の手を取り歸途、同村字久世原地內にさしかゝつた際首にかけた風呂敷包みを直さうと手を放した刹那正己は折から疾走して來た平町二丁目運轉手端高竹雄(二〇)名假の操縱する貸切自動車に轢き倒され頭部に瀕死の重傷を負ひ目下平町安齊病院に入院加療中であるが生命危篤であると

同居人を繞つて 淺ましい情痴地獄
或る漁師町に噂は賑ふ
娘と親

人の心が陽氣に浮く、其處彼處にホルモン旺盛が生んだ艶かしい話題が巷を賑はすシーズンとなつた、――これはまた娘の婿がねに見つけた同居人を繞つての春、パッと咲いた花ににふさはしい悲喜劇、と云ふべく餘りに淺ましい一家騷動だ

×

主人公は郡內の一漁師町に住む運ちやん上りの四十男、どんな風の吹き廻しだつたかその町にある某素人下宿屋の親達に見込まれてその家の一人娘Ｍ子(二九)さんの婿養子に入る事になり同家の二階に下宿し出したのが此一月の末つ方

×

處が娘の母親と云ふのが大の浮氣女で亭主ある身の大それた近き將來の婿殿を寢取つて四邊構はぬ痴蝶の振舞ひに狂はんばかりに怒つたのは當の御亭主さんだが、如何せん腰が弱くて今以て更に埒が明かず、居たゝまらなくなつた婿殿が、之のやゝこしい三角關係から逃るべく取り殘した世帶道具を引戻さんと駐在所へ願ひ出る騷ぎ

×

或時は遁ならぬ二人が某飲食店での濡れ場へ踏み入り今度こそはと妻を足蹴にするうち婿殿に逃げられ今度は婿殿を締めやうと搜し廻つてゐるうち妻が姿を晦してつい兩人共取り逃がした切歯激憤の失態もある

×

今では女も一と先づ實家に戻つてゐるが當の御亭主さん最近では怒り哮つて物騷なものを懷ろに氣も變らんばかりに姦夫の跡を血眼で搜してゐるとか――哀れは樂しの夢を飛ばされた當て馬役に了つた娘の心情だ

中等校生徒旅行　三中等學校四年生の修學旅行に關し準備中であつたが磐中は來月八日より五日間、磐女は同六日より六日間何れも大体昨年と略々同樣のコースで行ふことになつた、平商は未定

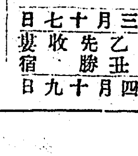
磐女生遠足　磐女校では來る二十三日全校生が勿來方面に遠足を行ふ

丸ほんれ花見　平町三丁目丸ほん家具店從業員約百八十名のお花見は今十八日松ケ岡公園で催されたが懸賞假裝行列などがあり盛んだつた

山林賭博に科料　內郷村大字綴字堀坂採炭夫阿部末松(三三)同石炭商雨宮時次郎(四六)同塗朝吉(四六)湯本町寶海石炭商根本二三(三五)內郷村大字御厩字久世原野菜行商早坂タケ(四三)の五名は去る十四日午後一時頃から堀坂地內山林で十丹賭博を開張、此程平區より略式で各科料十五圓に處された

十九日（小名濱測候所調査）
日出　五、〇一　月出後　六、四八
日沒　六、一二　月沒前　四、四〇
滿潮　前三、四〇　後五、〇五　干潮　前一〇、四〇　後一〇、四五
滿月　前六、〇六

舊三月十七日　乙丑　先勝　收　婁宿　新四月十九日　金曜



諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神宮館

▲一白の人　一難來る毎に英氣を振り立てゝ勵むべき日▲二黑の人　注意せざれば親友と仲違を生ずる事あり▲三碧の人　進む事のみに氣を奪はるゝ時は失敗すべし▲四綠の人　塵も積れば山となる萬事怠らざるがよろし▲五黄の人　物事慣和に一擧一動もおろそかにすべからず▲六白の人　閑散の秋態にあれども其中に幸運の兆あり▲七赤の人　あさひの昇るが如き隆運の日何事も進みて吉し▲八白の人　午前は吉なれども注意せざれば午後は失敗▲九紫の人　初は吉終は凶遠く行けば戻りは災あるべし

廣告

磐城名物　靈峰羊羹　小川郷驛前　平屋賣店

會津柳津虚空藏尊　附近名所遊覽團体募集
期日　五月十一、十二日
會費　一金九圓五十錢也　但往復旅費自動車賃（宿泊料共）虚空藏尊護摩料（中食付）
▲募集締切五月八日限り
申込所　平町一丁目三十一番地
主催　東北商工事報社
五月十一日　午前五時半平驛集合、同六時十五分平驛發車、同十一時五十二分若松着、自動車にて柳津詣摩後飯盛山東山溫泉一泊
十二日　東山溫泉出發二十聯隊參觀、松高宮御邸翁島驛午後二時四十一分發車、同六時二十二分平驛着解散

磐城家庭婦人會
皆様方の御手不足を補ふ家庭婦人會が出來ましたどうぞ御試用下さいませ。
親切。迅速。
◎會員募集（入會金ト維持費ハ申受マセン）
平町字田町五（元郵便局ウラ）　駒井ヒデ　電話三九九番（呼出）

特製男女通學服！特價提供……
男子一年生用紺サージ三、九〇ヨリ　綿サージ一、六〇ヨリ　小倉同一、四五ヨリ
女子用サージ三、三〇ヨリ　綿サージ一、六五ヨリ
男女防水萬套一〇、三〇ヨリ
其他春物新荷豊富取揃

洋服は高島屋
注文並ニ既製品　高島屋洋服店　平町二丁目　電話三八六番

內外建築材　建具材
入　阿部材木店　磐城國平町（公園下）　阿部好利（改メ）　電話四九四番

◎日本石油株式會社特約店
フイジンゲサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店　電話六一番
本店　水戸線下館驛前（電話五五番）
營業種目　石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、コールタール、石炭、カーバイト、コークス、ストーブ
支店所在地　茨城縣土浦町田宿（電話六五三）　常磐線關本驛前（電話八二四）　常磐線平潟（電話平潟五四）　四倉驛前（電話四八）　久慈濱支店　海上給油及油槽所―大津、平潟、小名濱、江名濱